

静岡県漁業協同組合連合会
1048 静岡市追手町 9-18
15.6.27 ☎ 054-254-6011
編集・発行 = 指導部漁政課

1. 本会・県信漁連 第54回通常総会開催

本会では、去る6月20日第54回通常総会を開催しました。

当日は、原会長が病气入院中のため本会藤井副会長の挨拶のあと、鈴木県副知事、小野県議会副議長の来賓の祝辞、祝電・メッセージ披露に続いて両連合会から漁協系統永年勤務職員(10名)の表彰を行った後、大井川町漁協杉本組合長が議長となり平成14年度事業報告、平成15年度事業計画等10議案が審議され、いずれも原案どおり可決承認されました。

永年勤続職員表彰：高橋庸泰(伊東市) 田原直春(下田市) 原田芳春(焼津) 深津昌彦(焼津) 池ヶ谷章佳(県鯉鮪) 秋山靖之(小川) 小野田善行(御前崎) 山内 勝(浜名湖養魚) 内田勝人(県漁連) 大石信之(県信漁連) (退職前所属団体・敬称略)

また、当日は本会の総会に引続き、県信漁連の第54回通常総会が開催され、佐藤会長の挨拶のあと、平成14年度信用事業優良漁協表彰・功労者表彰があり、栗原県農業水産部長、京谷農林中金静岡支店長の来賓祝辞、祝電披露に続いて伊東市漁協根崎組合長が議長となり平成14年度事業報告、平成15年度事業計画等10議案が審議され、いずれも原案どおり可決承認されました。また、理事欠員に伴う役員補欠選挙では無投票当選により網代港漁協小松隆男組合長が新理事に選出されました。

表彰 信用事業優良漁協 全漁連会長賞表彰：小川漁協 農林中金静岡支店長感謝状：岩倉一雄(御前崎支所長・漁協より出向) 県信漁連会長感謝状：新藤康晴(初島支所長・漁協より出向) (敬称略)

2. 県漁業信用基金協会通常総会及び設立50周年記念祝賀会開催

県漁業信用基金協会(小林稲雄理事長)では去る6月19日、ブケ東海静岡において平成15年度通常総会を開催し、地頭方漁協石津敏夫組合長が議長となり平成14年度事業報告、平成15年度事業計画等7議案が審議され、いずれも原案どおり可決承認されました。

また、総会に続き開催された創立50周年記念祝賀会には各漁協長ら内外関係者70余名が出席し小林理事長挨拶の後、江口水産庁水産経営課長、栗原県農業水産部長、鳶田農林漁業信用基金副理事長、猪瀬漁業信用基金中央会専務理事より夫々来賓祝辞が述べられ、引続き祝宴では佐藤信漁連会長の乾杯の発声で宴が始まり、盛会のうちに終了しました。

3. 平成15年度通常総会開催 会長に星川壽美雄氏が再任 - 県ふぐ漁組合連合会 -

県ふぐ漁組合連合会(星川壽美雄会長)では、去る6月10日平成15年度通常総会を開催し、平成14年度事業報告、平成15年度事業計画等について審議し、総て原案どおり可決承認されました。また、任期満了に伴う役員を選任を行った結果、会長に星川壽美雄氏(浜名・再)が、副会長には内野勇氏(福田町・新)、吉村長治(御前崎・再)が就任しました。

4. 平成15年度通常総会開催 会長に杉浦君和氏が就任 - 県養鰻協会 -

県養鰻協会(曾根啓式会長)では、去る6月23日平成15年度通常総会を開催し、平成14年度事業報告、15年度事業計画等について審議し、総て原案どおり可決承認されました。

また、任期満了に伴う役員を選任を行った結果、会長に杉浦君和氏(中遠養鰻:新)が、副会長には白石嘉男氏(丸榛吉田うなぎ:新)が就任しました。

5. 7月下旬に海難防止強調運動を全国展開

日本海難防止協会等では「海難ゼロへの願い」をテーマに、海難防止思想の普及と海難防止に関する知識・技能の習得を目的として「海難防止強調運動」を7月後半の16日間にわたり全国で展開します。

日本は主要な資源を海外から輸入しており、基幹産業が臨海部に立地している関係から海上輸送が活発で、さらに漁業活動も古くから全国津々浦々で行われ、これらの活動に加え近年では海洋レジャーが盛んになるなど、海の利用形態が複雑になると同時に海難事故も多発してきています。しかし海難は不適切な操船、不十分な見張りなど人為的要因によるものが増加しています。

そこで、海事関係者だけでなく広く一般にも海事思想の普及を図り、海難防止を訴えようと、毎年基本計画を作成し防止強調運動を展開しています。

6. JF全漁連「このハマ(漁協)の明日のために」パンフレット作成

全漁連では、JF改革運動を推進するために「このハマ(漁協)の明日のために - JF合併とコスト削減運動」と題するパンフレットを作成しました。

パンフレットでは、赤字続きではJF(漁協)の本来の役割は果たせないため、全国運動目標の「JFグループのトータルコストを3年以内に30%削減」に取り組み、コスト削減による収支改善で利益体質のJF(漁協)を構築することが急務と強調しています。

JF(漁協)合併による思い切った経営改革、認定漁協を対象とした国の支援策、信用事業の健全化に向けたJFマリンバンク基本方針、経済事業施設の適正配置、産地市場統合、全利用推進とコスト削減の購買・販売事業改革、トップマネジメントの債務などについて整理しています。

また、JF全漁連ではパンフレットの追加注文(実費)を受け付けていますので、詳しくは本会指導部組合課までお問合せ下さい。

7. 県TAC(漁獲可能量) 5月末漁獲実績を発表

県では、この程TAC対象4魚種の5月末現在の漁獲可能量を発表しました。

それによると、サバがTAC数量9,000トンに対し4,019トンで消化率44.7%となり、TAC数量が若干量の魚種では、マアジ1,308トン、マイワシ63トン、スルメイカ142トンとなりました。また、参考までにサンマは30トンの漁獲量となりました。

8. 諸会議・日程(7月1日(火)~7月14日(月)) - 既報分省略 -

7月1日(火) 県しらす船曳網漁業組合 = 支部長会議 (県水産会館)

7月8日(火) 県漁連 = 協同組合間提携推進協議会幹事会・事務局会議 (")

7月11日(金) 共水連 = JF共済担当者会議 (")

" 女性連 = 第2回理事会 (")

- お知らせ -

本会では前述の総会において、規約の一部変更が承認されたことに伴い、7月1日より現浜名出張所を焼津事業所浜名駐在所に改組致しましたのでお知らせします。